

●報告

宮城県石巻市釜谷地区の獅子頭の保存修復事例

渡 邊 真 吾（東北古典彫刻修復研究所）

ただいまご紹介にあずかりました、東北古典彫刻修復研究所の渡邊真吾です。よろしくお願いします。宮城県石巻市釜谷集落の木造獅子頭の保存修復事例について発表させていただきます。

今日はまず、釜谷集落についてご説明させていただき、東北地方太平洋沖地震による被災状況、獅子頭の修復に至るまでの経緯、修復事業の概要について述べた後、修復後及び現状の課題について皆様にお話いたします。

宮城県北東部、石巻市釜谷集落は、北上川の流れ出す追波湾より約4 km 上流に位置しています。北上川とその運河である富士川に沿う小さな集落で、かつては139世帯、496人が居住し、寺、小学校、交流会館、診療所、駐在所、商店が軒を連ね、この地域一帯の中核的な役割を担っていたそうです（図1、2）。

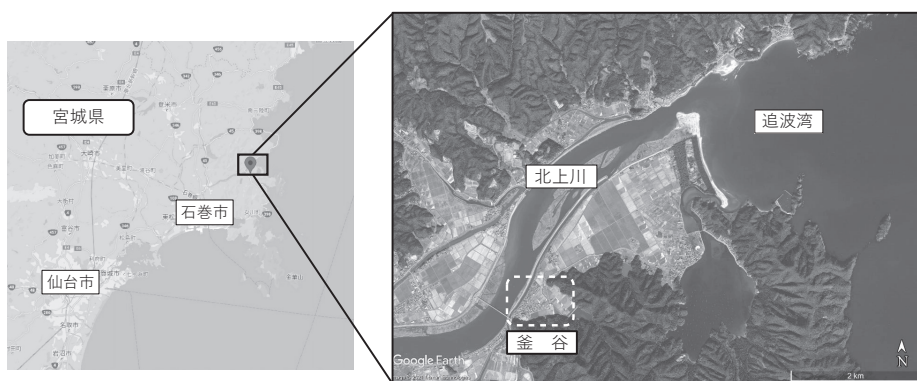


図1 釜谷集落所在地



図2 釜谷集落

東北地方でよく見られますが、集落では各家から20歳から55歳くらいの青年層もしくは壮年層の方々が参加してケイヤクと呼ばれる講集団が組織され、季節ごとの風習や行事の運営を担っていました。昔ながらの伝統を受け継ぎ、時代の流れに合わせながら行事や運営の形態を変え、集落の結束を緩やかにまとめるものとなっていたといいます。

特に、江戸時代から伝わる正月行事の大般若経巡行や2月に行われる春祈祷は、集落を挙げての一大行事でした。大般若巡行では、着物に草履を履いた旦那衆姿の男衆が経文を入れた箱を背負って地域、集落を回って、3時間ほど練り歩きます。この巡行行事は300年前の正徳年間に、地元の漁師たちがこの観音寺に経典を寄進したのが始まりとされ、経文を担ぐと病気になるという言い伝えがあったといいます（図3、図4）。

ただ、そんな大般若巡行も時代の移り変わりで参加者が減少し、開催を危ぶむ声もあったそうです。こうした時流に合わせて、契約講ではその都度開催方法を改革してきました。開催日時や衣装、参加年齢、休憩ポイントに至るまで、全戸配布のアンケートを実施、都度決定していたということです。こういった季節ごとの行事を民主的な形で変革、維持する意識がこの集落にはあったというわけです。

こうした行事の中心にあったのが、この獅子頭です（図5）。2月8日に行われる春祈祷で



図3 大般若巡行（1月3日）



図4 春祈祷（2月8日）



図5 釜谷集落 木造獅子頭

は、家々の玄関や部屋に上がり込み、各家の人たちの頭を大きな口で噛んで回り、舞を披露しました。これにより地域の人々は1年の無病息災を祈念したといえます。こうした姿はまさに地域の象徴だったといえましょう。

また、その獅子の後を大勢の子供たちが喜び勇んで追いかけていたということです。地域のいろいろな世代の人たちがこれらの行事を楽しんでいたことがうかがえます。

最大長で33.5 cm、比較的小ぶりの獅子頭ですけれども、上部に大きく突き出した目が特徴的です。近世の意匠的な造形へと変遷する特徴が見られ、制作は江戸時代の初期と推定されます。

普段は集落内の観音寺に大切に保管されているこの獅子頭ですが、春祈祷以外にも、秋祭りや子供みこし、何かとってはこの講の人たちに駆り出され、舞を披露していたということです。地域住民の方々にとっては何ら特別なものというわけでもなく、日常的に愛されていた存在でした。

しかしながら、こういった日常も震災で一変してしまいます。2011年3月11日、地震発生から約50分後の3時35分ごろ、追波湾河口から遡上してきた河川津波が堤防を越えてきて、この集落一帯を襲います（図6、矢印①）。それから遅れて今度は海側からの津波が、挟み込むようにして押し寄せてきます（図6、矢印②）。集落は壊滅状態となりました。その後、著しい地盤沈下などがあって一帯は災害危険区域に指定され、集落は今も非可住区域となっています。11名の行方不明者を含む193名が犠牲となりました。

獅子頭を保管していた観音寺も、瓦礫が押し寄せるなど甚大な被害を受け、獅子頭はもちろん境内の堂宇一切が流失します。寺の起源ともなった御本尊は今も行方不明のままで、現在は、鎮魂のための観音菩薩像と石碑がこの跡地に建立されています（図7）。

地震発生から約ひと月半経過した4月、5月ごろ、観音寺跡地では、檀家総代を中心に避難所の有志20名ほどが集まって遺留品の搜索が行われ、その結果ビニール袋20枚分にもおよぶ大般若経600巻紙片、梵鐘、それから太鼓が発見されました。大般若経は、その後住民の手によって仕分け、乾燥処理が行われました。その後、専門家の指示を受けながら定期的なワークショップを実施した結果、現在は200巻まで復元できています。

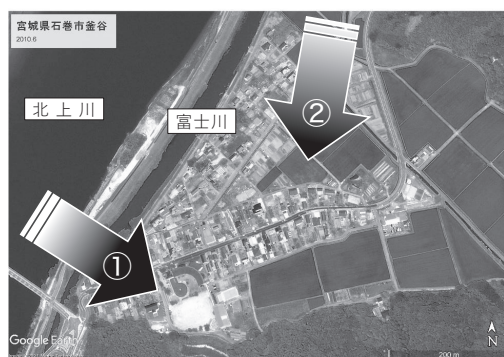


図6 釜谷地区 津波流入状況



図7 釜谷地区 2011年3月 丸印：観音寺

一方、観音寺跡地での遺留品捜索が行われていたその日、釜谷集落より西へ4kmほど離れた福地集落の横川体育館内に設置された遺留品保管所では、当時の講長が獅子頭を偶然発見します。写真などの遺留品を探しに来られた際、ふと目に入ったということでした。ありし日の大般若巡行において大きな役割を果たした獅子頭と大般若経が同日に発見されたというのは、何とも縁を感じる話です。

回収された大般若経、獅子頭は、即日、観音寺の本寺である福地地区の祥雲寺の倉庫に預けられました(図8)。

その後、2012年4月ごろ、住民の皆さんから市の文化財担当へ獅子頭修復の意思表示がなされ、同年8月に専門家による現地調査が実施されます。そこで獅子頭の状態の把握と、皆さんからのご意見の聴取が行われました。そこでは、

「獅子頭は見つかったけれども、震災後は当面の自分たちの生活の再建が先で、部落住民の間で文化財(獅子頭)の修理の話はできなかった。あれから1年が過ぎて、少しずつそういった話をしてもよいのではないか」。

また、「震災後初めての正月に大般若巡行がなかった。それがないのもなあ、獅子頭が直ればたまみなでやれたらいいなといった話もしていた。直った際には、ほかの地域も合同で、仮設に集まる人全体でお祭りをやれたらと考えている」など、前向きなご意見を伺うことができました。

これを受け、石巻市、宮城県の文化財担当の方が調整を図り、今後は各助成金もしくは補助金の採択をうかがいながら、事業実施を狙うという方針となりました。結果、翌年度の2013年6月には文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」に採択され、同年7月から修復事業が実施されました。

獅子頭の主な損傷箇所は以下の通りです。

①表面塗膜の剥離、剥落(図9)：津波によっておびただしい数の瓦礫などがぶつかり、流されていく中で、表面塗膜が剥落したものと考えられます。また、汚泥のこびりつきも確認されました。

②塩害(図10)：塩の析出物がいたるところに見受けられました。また、鉄釘には錆の表出が確認されました。

③形状の欠失(図11)：右耳の部分など所々の彫刻表面が失われた状態となっており、また植毛部分もほぼなくなっています。獅子の本体となる胴幕部分は発見当初残っていましたが、あまりにも汚れがひどいため切除し廃棄されたとのことでした。

こうした状況の中で、以下の4つの修理方針案を検討しました。

①応急処置：必要最低限な処置のみを施す応急的な修復です。具体的なものとしてはクリー



図8 獅子頭、大般若経 仮保管状況



図9 塗膜剥落、剥離、汚れ



図10 塩害、鉄釘の錆

図11 形状欠失：
右耳、胴幕、
毛髪

ニング、剥落止めにとどめるというものです。

②文化財の修理：通常彫刻文化財の修復を行う際に用いられる、現状を維持する修復処置です。①に加えて、形状のある程度の復元、補修、塗膜欠失部の調色などの処置を行います。

③塗り直し：現状の塗膜を全て除去し、新たに表面仕上げを施す処置です。具体的には、塗膜除去の後、順次①②の工程を行い、全体を覆う表面仕上げを行います。

④代替わり：特にこういった獅子頭やお面の修復ではよく見られますけれども、今回のこの当初面については別保存とすることを前提とした修復措置を行って、それと同時に模刻を制作します。つまり、次の代のお面、獅子頭をつくって、それを継承面として使用し、世代交代させるというものです。具体的なやり方としては、基本的に①もしくは②の修復を行って、それから現状面の形状、材質、構造などを忠実に模した獅子頭を制作するといったことが考えられます。

以上の4案を比較検討しました。

まず①応急的な処置に関してですが、先ほど皆さんに見ていただいた通り、もはや応急処置で対応できるようなレベルにないということで、これは現実ではないと考えました。

次いで②に関しては、仕上がりの問題として、塗膜欠失部の範囲が大変広いため、最終的な仕上がりがまだらの状態、まとまりのないものになることが予想されました。例えばそれをお返ししたところで、皆さんに納得できるようなものになるかと言われたら、それは難しいだろうと考えました。

一つ飛んで④は、模造の方が活かされ現状面が別保存されるということになれば、現状面が別の意味をもつモニュメンタルなものになる可能性を考慮しました。これは地域の皆さんが意図することなのだろうかという疑問があり、これも適当ではないと判断しました。

そこで最終的な案として、前向きな行事の再開に向けて、愛着のあるものを一新して使い続けるということこそが、未来に向けて一歩を踏み出す皆さんの意思に沿うものであろうということで、この③の塗り直しの案を提示することとしました。

通常、こういった修理方針に関しては、依頼者や地域、関係者の皆さんと相談しながら決定します。しかしながら今回は震災復興という前提があり、また地域の皆さんから過去の使用状況や震災後の祭礼に対する思いなどを聴取し、未来に向けて動き出そうという意識がかなり強いと感じており、その気持ちにぶれや迷いが出てしまうことがないように、あえて方針を一本化して皆さんにお示ししました。皆さんからもおおむね評価をいただきました。

表1 各修理方針案とその評価

	①応急処置	②文化財の修理	③塗り直し	④代替わり
概要	・必要最低限の処置のみを施す応急的な修復	・彫刻文化財の修復で見られる、現状を保持する修復処置	・現状の塗膜をすべて除去し、新たに表面仕上げを施す処置	・別保存(不使用)を前提とした修復処置 ・同時に模刻を制作し、継承面として使用する。
処置	・クリーニング、剥落止め	・①に加え、復元、補修、塗膜欠失部の調色	・塗膜除去の後、順次①、②の工程を行い、表面仕上げ。	・基本的に①もしくは② ・現状面の形状、材質、構造などを忠実に模した獅子頭を制作する。
評価	↓	↓	↓	↓
	・もはや応急処置レベルの状態ではない。 ×	・塗膜欠失部の範囲が広い ため、最終的な仕上がりが まとまりのないものになる。 △	・前向きな行事の再開に向けては、愛着のあるものを 一新して使い続けることに 意味がある。 ○	・模造が活き、現状面が別 保存されれば今後震災遺 産品化する。 ×

修復作業は2013年の7月から始まりました。

最初の調査から1年が経過しており、工房に運搬してから確認したところ、内部から大量のごみが確認されました。おそらく、越冬時期に鼠などの小動物が侵入し営巣した跡と考えられます。あの状況下で最大限の効果を上げているとはいえ、一時保管方法に関しては今後一考の余地があると思われます(図12、13)。



図12 同2013年7月
工房搬入時



図13 獅子頭内部
2012年8月調査時

修復処置を始めていきます。先ほどのごみを取り除いて、軽く刷毛で掃除をした後に、漆塗膜をペンディングナイフや竹べらなどで物理的に除去します(図14)。この後、脱塩処理を行います。ペーパータオルを表面に貼りつけ、それに精製水を吹きつけて塩を浮かすというごく簡単な処理を何回か繰り返しました。

素地の状態からキリ材が使われていることが判明したため、右耳や上の歯などの形状欠失箇所への復元には同材を使用することとしました(図15)。

素地状態の処置完了後は当初表面塗膜の保護を目的として、紙貼りを行います。典具帖紙5グラムを膠(にかわ)で貼り込んでいきました(図16)。さらにその上から漆の工程に入ります。布着せ、錆付け、研ぎ、そして塗りを施していくという処置です(図17、18)。

獅子の胴幕については、わずかに切れ端が残っていたので、この意匠をもとにして山形県南陽市の染物屋さん(高岡染店)に、麻布を染め抜いてつくっていただきました(図19)。

獅子頭の組み立て、それから胴幕の取り付けなどは、山形県長井市で獅子頭制作を行っている渋谷正斗さんにご協力いただき行いました(図20)。あとは、馬の毛を植毛し、それをヘアアイロンなどで毛先を整えて、完成です(図21、22)。

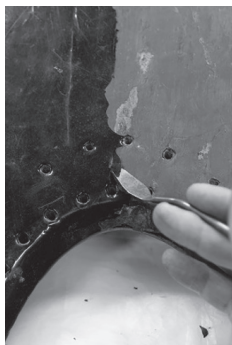


図 14 塗膜の除去



図 15 右耳の復元



図 16 紙貼り



図 17 布着せ



図 18 塗り



図 19 同幕の制作



図 20 胴幕取り付け



図 21 植毛



図 22 完成

今回、表面塗膜の除去作業中、制作当初に施されたと思われる塗膜が確認されました。集落の方々のお話では、約30年前に塗り直しの依頼をしたということですので、今回除去した表面塗膜は昭和から平成にかけて施されたものと考えられます。当初塗膜で特に特徴的なのはこの目の部分です。赤みを帯びた、現状よりも大きな瞳が塗膜下層から確認されました。一見、今のものよりも迫力に富む眼光をしていて、印象は全く異なります（図23）。

現状とは全く異なる当初塗膜が確認された以上、表面仕上げの方針についてはやや判断しかねるところがありました。そこで、これを講長さん、集落の方々と相談して決めることにいたしました。

我々としては、今回出てきた当初の塗膜は獅子頭の歴史的な価値及び希少性をあらわすものであり、塗り直しとは言えその特徴を示すべきではないかと考えました。つまり、眼の部分については、当初に施された赤い大きい瞳に従って表現、再現することを提案しました。

一方集落の皆さんの総意としては、この「赤くて大きい」瞳については違和感しかない、全く相入れることはできないといったご意見でした。そもそも釜谷の獅子頭は人相が良く、周辺集落からも大変有名だったそうで、地区民もそれを誇りにしていたということでした。そんな獅子頭を代々受け継いで行事を行ってきたわけですから、今さらこの人相の変った獅子頭を返されても困るといったわけです。

確かに、この獅子頭が今後行事にて使用されるということを考えると、表面の問題は、地区の皆さんのモチベーションにかかわる大きな問題となってきます。愛着の薄れた、他人行儀の獅子頭が、今後集落の中心にはなり得るかは疑問です。作品自体の意味や価値以上に、集落と獅子頭のつながりを改めて思い知らされた次第です。

そこで当初の計画どおりに、眼は損傷前の状態、小さなつぶらな瞳を再現することにしました（図 22）。ただし、今後どのような評価を受けるかわからないため、先ほどご説明した通り、漆仕上げの前に、典具帖紙を膠で貼り込んで当初塗膜を保護し、修理報告書には、表面塗膜を施す前の写真を所載しました。

修理の完了した獅子頭は、2014 年 1 月に皆さんのもとへお返しすることができました。そこでは早速使い具合などが確かめられました（図 24）。

獅子頭は現在、釜谷集落から南に約 1 km 行った観音寺内に保管されています（図 25）。檀家さんの土地を借り受けて建てたプレハブ仮本堂、その隣の収蔵庫に大般若経 600 巻、太鼓とともに、桐箱に入って保管されています（図 26）。

現在は、毎年 1 月 3 日、「ご年始」の祈祷行事が行われています。先ほどの仮本堂の境内にて有志が獅子舞を行い、毎年 20 名から 30 名程度の参加者があるということでした。しかしながら、現状で、この行事の開催認知自体が広がっていないということが大変問題であるというお話です。



図 23 塗膜除去後の状態



図 24 搬入の様子



図 25 観音寺仮本堂



図 26 収蔵庫

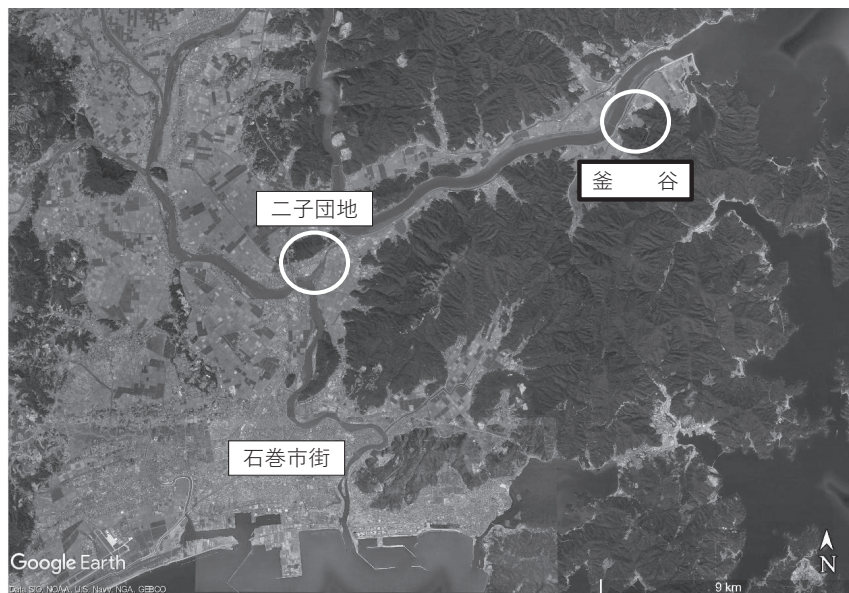


図 27 釜谷集落住民の主たる現住地

その原因としては、住民の多くが釜谷から離れ、それぞれ別々に暮らしていることが挙げられます。皆さんのほとんどが西に 10 km ほど行った二子団地や石巻市街に移られ、他にも市外、県外にお住まいになっている方もいることから、以前のような情報共有は困難となっています。

また、集落の結束、速やかな行事運営を可能にしていたケイヤクという講組織も、震災からほどなくして解散しており、これが行事開催の認知を難しくしています。結果、集落としての存在意義の希薄化に拍車をかけているように思えます。祭りなどの伝統行事は、集落にとってまさに根幹をなすものであり、そのアイデンティティーの存続が今まさに危ぶまれていると言っても過言ではありません。

本修復によって獅子頭そのものは残りました。今は、この活用方法について問題とするべき段階となっています。これはほかの被災案件においても同様のことと思います。

釜谷の問題は、既存継承形式がいま崩壊しつつあるということです。震災後、集落が非可住地域となり、住民が複数地域に分散していて、集落としてのまとまりがなくなってしまっています。契約講も解散してしまった今、釜谷の文化継承を担っていた基盤が既になくなっているということになります。つまり、活用する軸というものがなくなってきているわけです。

そこで、基盤、軸の再構築が必要になってくるだろうと考えます。今はまだ、問題意識を持つ住民の皆さんもいらっしゃいます。契約講の中心となっていた方々、以前を知る方々が釜谷住民としてのアイデンティティーを何とか継承したいという思いを持っています。そこで、単発的、偶発的にでも、何かイベント事、催し事ができないかという提案もあります。企画段階から一定数の元住民がかかわるようなものであれば、こういったアイデンティティーは継承できるのではないかというお話もありました。ぜひ外部の専門家の皆さんからは、ご意見、ご助言が欲しいところです。

それから最後に、これは私の勝手な提案ですけれども、今後の外部との情報交流はこれまでも増して活発に行うべきだろうと思います。これまで、釜谷集落の文化というものは内部完結し、継承、熟成されてきた文化だと言えます。外部の人間からすればそれは、外の世界に誇るべきものに見え、獅子頭、獅子舞はその結晶たるものだと考えられます。例えば民俗芸能祭りなどの外ごとのイベントで客演する、そういった外部団体との交流はこれから必要になるだろうと思います。そういったところで受ける評価は、釜谷住民にとって新たなアイデンティティーの確立の一助になると考えます。

以上で発表を終わります。

本事業、発表においては、武山勝浩様、阿部良介様をはじめとした釜谷集落住民の皆様、観音寺様、小谷竜介様（独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター）、成田暢様（石巻市博物館）、高岡染店様、渋谷正斗様よりご協力、ご助言を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ご清聴ありがとうございました。